

WEEKLY SIGNAL

平成30年5月11日(金) 1423号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	5/14(月)	5/15(火)	5/16(水)	5/17(木)	5/18(金)
無担保O/N			△0.086%	~ 0.001%	
銀行券	+ 1,400	+ 1,000	+ 1,000	トシ	トシ
財政他	△ 10,700	△ 12,000	△ 7,000	+ 4,000	△ 15,000
資金需給	△ 9,300	△ 11,000	△ 6,000	+ 4,000	△ 15,000
主要要因	源泉税揚げ 国庫短期証券発行・償還(3M)	国債発行・償還(2年)	国債発行(30年)		国債発行(5年)
オペ期日	国債補完供給 + 1,000 共通担保(全店) △ 2,400 CP等買入 △ 300				
オペスタート	国債買入 + 3,100 共通担保(全店) + 2,000				
(日本)	企業物価指数(4月、日銀) 営業毎旬報告(5/10現在、日銀) 保有する国債の銘柄別残高 (日銀) 国庫短期証券の銘柄別 買い入れ額(日銀)		国内総生産(1-3月速報、内閣府)	機械受注(3月、内閣府)	消費者物価指数 (全国4月、総務省)
(海外)	米 クーブランド連銀総裁、講演(パリ) 米 セントルイス連銀総裁、講演	米 小売売上高(4月) 米 企業在庫(3月) 米 NAHB住宅市場指数(3月) 米 サンフランシスコ連銀総裁、講演 米 グラス連銀総裁、講演 ユーロ圏 GDP(1-3月、改定値) ユーロ圏 鉱工業生産(3月)	米 住宅着工件数(4月) 米 鉱工業生産(4月) 米 アトランタ連銀総裁、講演 米 セントルイス連銀総裁、講演 ユーロ圏 CPI(4月、確定値)	米 新規失業保険申請件数 (12日終了週) 米 景気先行指標総合指数(4月) 米 ミネアポリス連銀総裁、講演 米 グラス連銀総裁、講演	米 クーブランド連銀総裁、講演 (フランクフルト) 米 グラス連銀総裁、講演 米 FRBプレナード理事、講演

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.050 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.040 ~ 0.030
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.030
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.120

<インターバンク>

日銀当座残高は週初384兆1,200億円から始まった。8日には、短国・国債買入オペを主因に385兆7,900億円まで増加したが、9日には財政等要因等により383兆6,500億円まで減少し、週末は383兆6,900億円となった。  
無担保コールON物の加重平均金利は週初△0.072%から始まったが、その後は、基礎残高・マクロ加算残高の調整を目的とした調達ニーズの高まりから上昇基調を辿り、週末となる11日には△0.034%となった。  
ターム物は1W~2W物を中心に、主に△0.05~△0.03%の出合がみられた。  
来週は、国内ではGDP1-3月速報(16日)、CPI(18日)、海外では、米小売売上高(15日)、米鉱工業生産(16日)等が予定されている。

<C P>

今週の入札発行総額は約8,000億円で、週間償還総額の約6,500億円を上回った。GW明け、商社や電気機器・鉄鋼等の大型案件があったが、案件数は少なく落ち着いた市況であった。週末の発行市場残高は、16兆4,000億円程度になった模様。発行レートは、ディーラーや投資家の購入ニーズが強く、概ねマイナス~0%近辺の出合であった。8日にオファーされたCP等買入オペ(2,000億円)は、4月24日実施分(2,500億円)より減額となったものの、応札倍率は3倍程度とほぼ前回並みで、按分レートは△0.005%と横這いであった。  
来週の償還総額は、約4,200億円となっている。一部の企業を除き、本格的な資金調達は下旬以降の動きとなると思われる、今週同様落ち着いた市況が予想される。発行レートは、ディーラーや投資家の運用ニーズが強く、変わらずマイナス~0%近辺の出合であろう。15日に、CP等買入オペが2,000億円程度でオファーされる予定。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.150 ~ △0.100
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<TDB>

9日に行われた国庫短期証券6M第756回債の入札は、最高落札レート△0.1255%(前回債△0.1534%)、平均落札レート△0.1294%(同△0.1594%)と前回債からマイナス幅を大きく縮小。11日に行われた3M757回債も最高落札レート△0.1222%(前回債△0.1323%)、平均落札レート△0.1275%(同△0.1411%)と前回から利回りが上昇した。  
セカンダリー市場は積極的な買いは見られず、3Mが△0.121%で出合が見られた。  
来週は17日に1Y、18日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

5月から国債決済期間が短縮化されたことにより、GC取引は銘柄先決め方式と銘柄後決め方式が並立する形になった。銘柄先決めGCは、2日受渡しで△0.10%近辺~△0.07%近辺とやや広いレンジの出合となったが、発行が続いたこともあり水準は上昇。10日受渡し以降は△0.05%台の出合が続いた。銘柄後決めGCは、概ね△0.06%~△0.05%近辺の取引が中心であった。SC取引では、10年350回債が月初から入札日前日にかけて△0.50%台半ば~△0.40%台前半で取引された。5年135回債は9日の国債買入オペ後にレート低下。△0.40%台前半~△0.30%台半ばの出合が多く見られた。他2年386・387回債、5年134回債、10年334・339・340・342・344・348・349回債、20年163・164回債、30年57・58回債などに引合が多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。